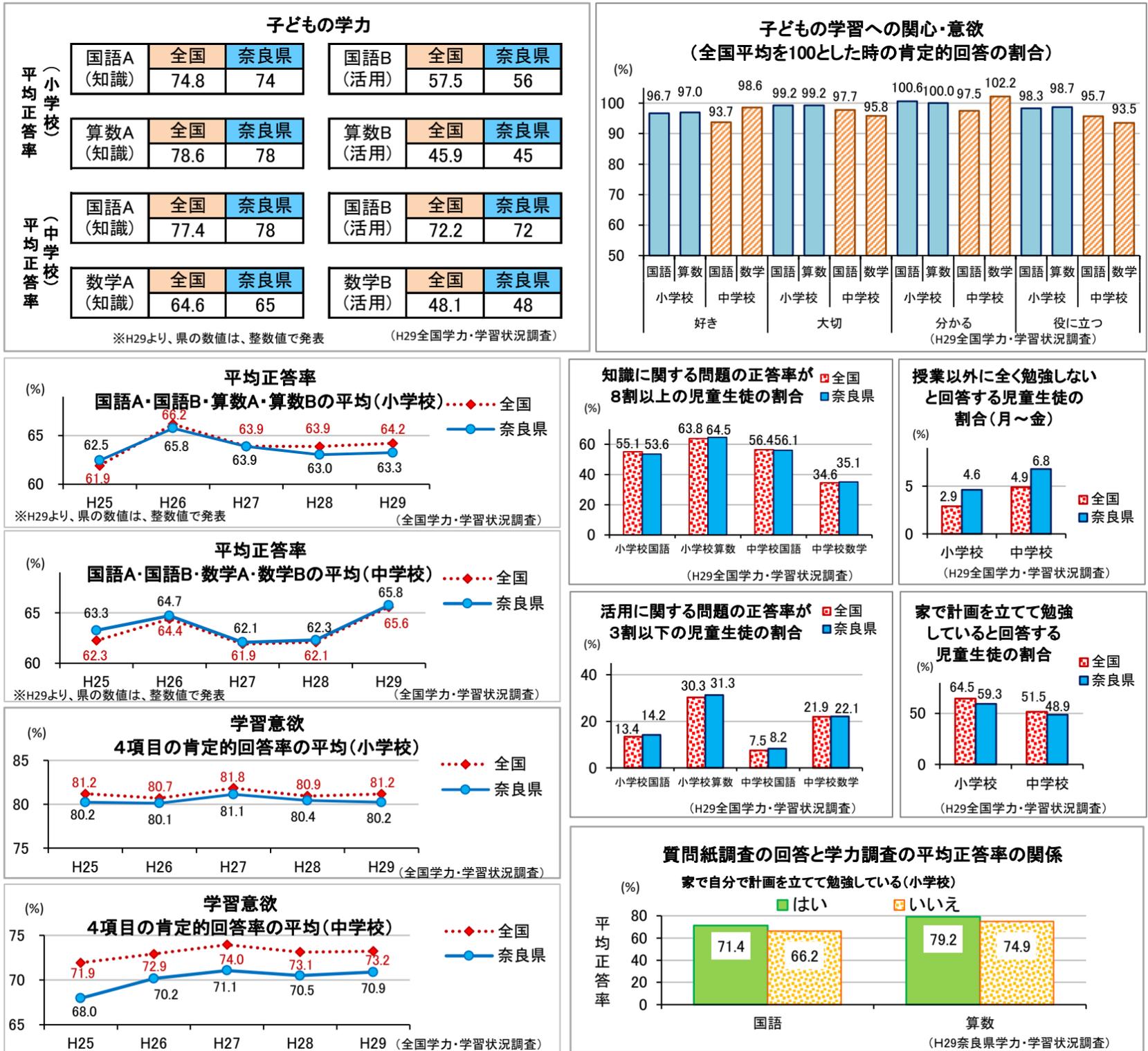


施策分野

1 学びのステージに応じた教育のあり方

1-2 学ぶ力と意欲を伸ばし、豊かな人間性を育む学校教育の推進

現状と課題

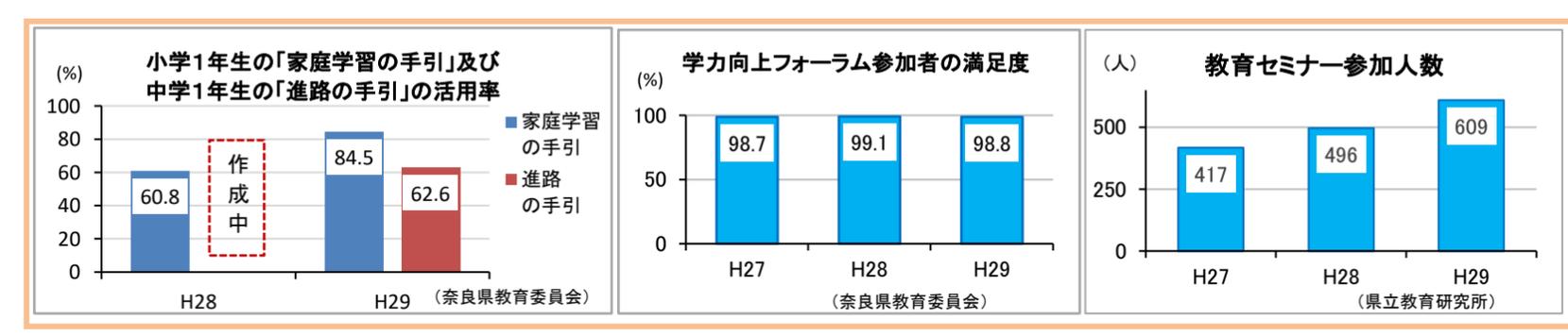


○子どもの学力について、国語A、国語B、算数(数学)A、算数(数学)Bの全ての科目において、全国平均並みである。全体として、主として「活用」に関する問題(B問題)を解くために必要な学力について課題が見られる。

○学習への関心・意欲に関する質問項目について肯定的回答をした児童生徒の割合が、全国平均と比較して全体的に低く、特に中学校において、その差が大きい傾向が見られる。

また、「授業以外に全く勉強しない」と回答する児童生徒の割合が全国平均と比較して高く、「家で計画を立てて勉強している」と回答する児童生徒の割合は低い。

平成29年度の取組状況の評価



主な取組(平成27年度～平成29年度)

上段:取組名 下段:取組内容	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学力向上実践研究推進事業の実施 全推進校に対する学習意欲又は学力の向上が見られる推進校の割合(%)			
推進地域、推進校を指定し、学校や児童生徒及び地域の実情を踏まえた確かな学力の育成を図るとともに、その成果の普及を図る。(目標値:全推進校に対する学習意欲又は学力の向上が見られる推進校の割合80%以上)	100	100	100
学力向上フォーラムの実施 研修参加者の満足度(%)			
学力向上に向けた協議や全国及び奈良県学力・学習状況調査結果を踏まえた効果的な取組の実践発表を行う。(目標値:研修参加者の満足度90%以上)	98.7	99.1	98.8
「まなびー奈良」の活用 学校での活用率(%)			
「全国学力・学習状況調査」において課題の見られた問題をWeb配信するとともに、小学生がつまづきやすい内容の授業モデルを作成、動画配信する。(目標値:学校での活用率80%以上(抽出調査))	—	—	79.5
小・中学校合同の授業研究の推進 学期に1回以上合同で授業研究を行う学校の割合(%)			
同じ中学校区の小・中学校教員が参加する公開授業や授業研究等の研修を実施し、異校種間の円滑な接続とともに教員の指導力の向上を図る。(目標値:学期に1回以上合同で授業研究を行う学校の割合50%以上)※全小・中学校を分母とした割合を記載※平成27年度は学校教育課のみの値	31.1	68.3	60.1
理数教育実践研究の実施 児童の算数・数学、理科の学習意欲に関する肯定的な回答の割合(%)			
理数教育の充実に向け、へき地校のモデル校において、大学等と連携しながら中学校教員による小学校での授業などを通し、効果的な教育課程の開発や児童の学習意欲の向上のための実践研究を行い、その成果を広く県内各学校に周知する。(目標値:児童の算数(数学)、理科の学習意欲に関する肯定的な回答の割合80%以上)	—	—	95.8
森林環境教育指導者育成事業(未来の科学者創出) 天体観測を含む野外での教員研修回数(回)			
未来の科学者を創出するために、天体観測を含む自然観察を通して理科好きの児童を育成するなど、森林環境教育の指導者を育成する。(目標値:天体観測を含む野外での教員研修5回以上)	—	5	5
理科の観察・実験支援員の派遣 上段:派遣した学校での観察・実験の実施週1回以上の割合 下段:理科が好きな児童の割合(%)			
理科の学力向上を図るため、観察・実験支援員を小学校へ派遣する。(目標値:派遣した学校での観察・実験の実施週1回以上、理科が好きな児童の割合84%以上)	—	100 82.1	100 79.3
新・次世代教育情報化推進事業 研修の開催回数(回)			
教員のICT活用指導力の向上を図るため、昨年度育成したICT教育推進指導者による研修を開催する。(目標値:研修の開催回数30回以上)	—	—	13
英語指導力向上研修講座の実施 上段:英検準1級以上等を有する中学校英語担当教員の割合(%) 下段:英検3級等以上を有する中学校3年生の割合(%)			
英語教育の推進を目的に、県内小・中・高等学校における外国語活動・英語担当教員の指導力向上のための研修を実施する。(目標値:英検準1級以上等を有する英語担当教員の割合の増加、英検3級等以上を有する中学校3年生の割合の増加)	25.3 34.1	34.6 48.0	36.2 40.4
教育セミナーの開催 参加者数(人)			
奈良県教育の課題の解決を目指し、県立教育研究所員、指定研究員等が行った実践的研究の成果を発表するなど、本県教育の推進に役立てるために開催する。(目標値:参加者数350人以上)	417	496	609
「家庭学習の手引」の活用 小学1年生での活用率(%)			
子どもに家庭で主体的に学習する習慣を身に付けさせるため、「家庭学習の手引」を小学1年生とその保護者に配布し、活用を促す。(目標値:小学1年生の家庭における活用率80%以上(抽出調査))	—	60.8	84.5
「進路の手引」の作成 中学1年生での活用率(%)			
将来を展望し、自らの人生を切り拓く力を育てるため、「進路の手引」を中学1年生に配布し、活用を促す。(目標値:中学1年生での活用率80%以上(抽出調査))	—	H29に配布	62.6

取組の成果と課題

○各事業を通して学力向上のための具体的な授業改善について周知した結果、学力に関して小・中学校ともに概ね全国平均レベルで推移しているが、B問題に見られる「理由を明確にして、自分の考えを書くこと」などに課題がある。
○学習意欲に関して肯定的な回答の割合は、小学校は全国平均並みであるが、中学校は全国平均との差が大きい。また、授業以外に全く勉強しない児童生徒の割合が全国平均と比べて大きい。依然、学習意欲の向上や学習習慣の定着に課題がある。
○児童生徒に今後求められる学力を育むに当たり、指導者として必要な資質・能力の向上を図るため、研修に対する教員の関心や意欲は高く、多くの参加者を得た。

評価

○学力については、全体として全国平均並みであるが、「必要な情報を読み取り、それらを活用して、自分の考えをまとめて書くこと」をはじめ、教科や設問毎に見られる課題があり、今後も学力向上を図る取組を充実させる必要がある。
○学習意欲に関する課題については、様々な機会を活用し、小・中学校に対して「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進する。また、学習習慣の定着については、「家庭学習の手引」の活用を促すなど、今後も取組を継続する必要がある。
○学習指導要領の改訂によって、どのような授業づくりが求められるのかを理解するために、研修に対する教員のニーズは高まっており、今後も研修機会及び研修内容の充実を図る必要がある。

今後の主な取組より（平成30年度）

上段：取組名 中段：事業・取組内容 下段：平成30年度指標・目標値

学力向上実践研究推進事業の実施

推進地域、推進校を指定し、学校や児童生徒及び地域の実情を踏まえた確かな学力の育成を図るとともに、その成果の普及を図る。

全推進校に対する学習意欲又は学力の向上が見られる推進校の割合80%以上

「まなび一奈良」の活用

「全国学力・学習状況調査」において課題の見られた問題をWeb配信するとともに、小学生がつまずきやすい内容の授業モデルを作成、動画配信する。

学校での活用率80%以上（抽出調査）

小・中学校合同の授業研究の推進

同じ中学校区の小・中学校教員が参加する公開授業や授業研究等の研修を実施し、異校種間の円滑な接続とともに教員の指導力の向上を図る。

年に1回以上合同で授業研究を行う中学校区の割合60%以上

次世代教育情報化推進事業

教員の情報活用能力の向上を図るため、ICTを活用した教育を推進する指導的教員を育成するための研修を開催する。

研修の年間開催回数30回以上

英語指導力向上研修講座の実施

英語教育の推進を目的に、県内小・中・高等学校における外国語活動・英語担当教員の指導力向上のための研修を実施する。

英検準1級以上等を有する英語担当教員の割合の増加、研修参加者の満足度90%以上

「家庭学習の手引」の活用

子どもに家庭で主体的に学習する習慣を身に付けさせるため、「家庭学習の手引」を小学1年生とその保護者に配布し、活用を促す。

小学1年生の家庭における活用率80%以上（抽出調査）

「進路の手引」の活用

将来を展望し、自らの人生を切り拓く力を育てるため、「進路の手引」を中学1年生とその保護者に配布し、活用を促す。

中学1年生及びその家庭における活用率80%以上（抽出調査）